

2022年3月期決算説明会—質疑応答—

Q：前回、原料高対策として販売価格転嫁のスキーム改善を検討していると伺ったが、進捗についてご教示頂きたい。

また、現時点の原料高に対する対策についてもご教示頂きたい。

A：原料高対策は、安価原料使用拡大等の製造技術力による対策と販売価格転嫁の両面で進めている。このうち販売価格転嫁については、転嫁までのリードタイムに関し、顧客の理解を得ながら、その短縮を徐々に進展させているところである。足元の原料価格は高位安定しており、更なる高騰気配は薄いと捉えている。むしろ、一部の原料における特定国への調達依存をリスクと捉えており、調達先の多様化による安定調達を進めているところである。

Q：1年前、半年前と比較しての景況感を全体（連結）と地域別でご教示頂きたい。

A：ロシアによるウクライナ侵攻により、1年前・半年前と比較し、景況感全般に先行き不透明感は強いと認識している。その中で地域別には、インド市場は着実に成長、また欧州市場は鉄鋼向けに加え非鉄向けで着実な需要が見込まれると捉えている。中国市場は粗鋼生産の減少が見込まれるものの、当社の強みである高機能商品に関しては、影響は限定的である。南米でのアライアンスパートナー（IBAR社）との協業効果等、海外各市場での施策により海外売上高増を実現した。これらの継続により、景況感に不透明感が強い中でも成長を目指していく。

Q：2023年3月期の増収計画について国内耐火物の値上げ、海外での販売増加が増収に貢献すると考えるがそれぞれの内訳についてご教示頂きたい。

A：具体的な内訳については、回答を控えさせて頂く。国内は、主に販売価格改善、海外は、主に伸長する市場の着実な捕捉により、国内・海外ともに増収を目指していく考えである。